

# 占部慎一先生近況



皆さんこんにちは。私は英国 Durham 大学から Visiting Scholar (客員研究員) として招待していただき、1 月末から Durham に滞在しています。

日本と違う文化に慣れないことばかりですが、約 130 年前、単身ロンドンに渡り貧困にもめげず大英博物館の一隅で 6 年間研究し続け、無冠の身でネイチャーに 51 本もの論文を書いた南方熊楠の情熱に思いを馳せ、ポジティブに過ごしています。

先日もこんなことがありました。空手を教えている青年がいると紹介されたので見学にいきました。行きはカレッジのポーターの方が車で送ってくれました。指導者の青年は、合理的・知的に指導すると同時に自分でも的確に実践してみせる日本でもめったに会うことのない好青年でした。練習が終ると彼が送ってくれるといいます。「少しジムで待っててください。私が pick up しますから」と私には聞こえたのですが、1 時間待っても来ません。

初めての場所で全くの不案内、寒く雨がちらつく夜道、しかも私の携帯は日本国内用から海外使用に切り替えていません。心細く困り果て、思い切って空手の後のボクシングクラブのトレーニングから帰りかけていたアジア系の女子大生に「タクシー会社に電話して、タクシーを 1 台読んでくれませんか」と訊きました。彼女は快く引き受けてくれました。が、タクシー会社の返事は、私の住所へは行かないというものでした。

「参ったなー。どうすればいいんだ」と困り果てていると彼女が私の住所を再び見直して「私も St Mary college の側です。ご一緒しましょう」と言ってくれました。彼女は、マレーシアから Geography を学びに来ている Durham 大学の留学生でした。

「日本は北海道に行ったことがある。雪に感動しました」「日本の食べ物で一番おいしかったのは、ラーメンです (笑)」など 30 数分間の帰り道、拙い私の speaking でも様々な話題を楽しむことができました。災い転じて福となるですね。彼女の優しさと心の広さに感謝するとともに、チャレンジし道 (希望・方法) を求めることの大切さを痛感したできごとでした。(実は空手の指導をしていた英国の青年は、夜、仕事をしていて、それが終わったら私を送ってくれると話してくれたんだそうです。私が聞き間違いをしていました)。

一過去と他人は変えられない。しかし、いまここから始まる未来と自分は変えられるー エリック・バーン (交流分析)